母からの手紙

　げんきだが　さびぐてさびぐてかぜしぐな

さむくてさむくて風邪ひくな

元気ですか

おめのすきだりんごとこめおぐるから

おまえの好きなりんごと米を送るから

たべでけれ　わらしさもじっぱりかへれ

子供にも沢山食べさせなさい

食べなさい

ままもかへれ　おらもげんきだしんぺいらね

私も元気だ心配いらないよ

ごはんも食べさせなさい

にもつちーだらへんじよこへ　けーこさんだいじにしれよ

嫁さんを大切にしなさい

荷物着いたら手紙よこしなさい

したらな　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　タケノ

それでは

―遠いわが家族へ母からの手紙である。

明治生まれの無学な母、習い覚えた「ひらがな文字」が右に左に這っていた。

何の飾りもも無い、思うがままの方言言葉、ひと文字ごとに伝わるずしりと重い親心…。きゃしゃな体に明治の気骨、子供九人生み育てた底力、大家族を支え続けた目まぐるしい日々、いつも笑顔の母だった。

その後、病に倒れた寝室に文字を忘れまいとして「あいうえお五十音図」が壁に大きく貼られていた。

あれから十数年―文字も上達しただろうが、あの世からの手紙は未だ届いていない。

応募時（秋田県70歳）武藤清治